

もっとも近い整数に切り下げる INT

書式: INT(**数値**)

計算例: INT(**12.3**)

数値 [12.3] の小数部分を切り捨て整数部 [12] を求める。

機能 数値を整数にするもっとも簡単な関数は INT 関数です。「[数値] を超えない最大の整数」が得られるように、数値を切り下げます。したがって、「-12.3」と指定した場合は「-13」となります。

単に、数値の小数点以下の値を切り捨てて整数にするだけなら TRUNC 関数 (P.55 参照) が利用できます。

使用例 税込み円単価を求める

下表は、ケースごと仕入れた缶ジュースなどを販売する場合に、ほぼ同一の利益率以上の利益をのせる場合、いくらにすればよいか、という計算で 1 円未満を切り捨てています。「販売単価」から「販売円単価」を求めるために INT 関数を使用して、セル [G4] に「=INT(F4)」と入力し、入力した関数を下のセルにコピーしています。この計算では、切り捨ての結果、実質利益率が若干変動しています。

A		B		C		D		E		F		G		H	
販売価格の計算		仕入価格		販売価格											
商品名	ケース単価	数量	缶単価	利益率	販売単価	販売円単価	実質利益率								
缶コーヒー	2,150	24	89.58	25%	119.4444	119.0000	24.72%								
野菜ジュース	2,250	24	93.75	25%	125.0000	125.0000	25.00%								
ラムネ	1,850	24	77.08	25%	102.7778	102.0000	24.43%								
トマトジュース	2,000	24	83.33	25%	111.1111	111.0000	24.92%								
アップルティ	1,850	24	77.08	25%	102.7778	102.0000	24.43%								

07

指定桁数になるように数値を切り捨てる TRUNC

書式: TRUNC(**数値** [, **桁数**])

計算例: TRUNC(**12.345** , **1**)

数値 [12.345] を小数点第 2 位で切り捨てて、小数第 1 位までの数値 [12.3] を求める。

機能 TRUNC 関数は、[数値] を指定した [桁数] の数値になるように、それ以下の部分を切り捨てます。[桁数] を省略したときは、[数値] が正の場合は INT 関数と同じ結果を返しますが、[数値] が負の場合は、計算結果が異なります。たとえば、「-12.3」を指定した場合は、単に小数部を切り捨てた「-12」となります。

同様の機能を持つ ROUNDDOWN 関数 (P.56 参照) がありますが、[桁数] は省略できません。[桁数] は、切り捨てを行ったあとの小数点を基準にした桁数を指定します。たとえば TRUNC(12.345,2) とした場合は、[12.34] になります。

数値を指定桁数で四捨五入する ROUND

書式: ROUND(**数値** , **桁数**)

計算例: ROUND(**12345** , **-2**)

数値 [12345] を十の位で四捨五入して 100 単位の数値 [12300] を返す。

機能 数値を四捨五入するには、ROUND 関数を使用します。この関数は、[数値] の小数点以下の桁数を [桁数] で指定します。[桁数] が正の場合は小数部を、負の場合は整数部を四捨五入し、[桁数] が [0] の場合は整数化します。

数値を指定桁数に切り上げ / 切り捨てる

ROUNDUP

ROUNDDOWN

書式: ROUNDUP(**数値** , **桁数**)

計算例: ROUNDUP(**12.345** , **1**)

数値 [12.345] を小数点第2位で切り上げて、小数点第1位までの数値 [12.4] を求める。

書式: ROUNDDOWN(**数値** , **桁数**)

計算例: ROUNDDOWN(**12345** , **-2**)

数値 [12345] を十の位で切り捨てて、100単位の数値 [12300] を求める。

機能 ROUNDUP関数は [数値] の桁数が指定した [桁数] になるように切り上げます。ROUNDDOWN関数は [数値] の桁数が指定した [桁数] になるように切り捨てます。[桁数] が正の場合は小数部を、負の場合は整数部を切り上げ / 切り捨て、[桁数] が [0] の場合は整数化します。

使用例 切り捨て / 切り上げ関数の比較

「ROUNDの付く」関数は、四捨五入のROUND関数、切り上げのROUNDUP関数、切り捨てのROUNDDOWN関数の3つです。

下表に、さまざまな [数値] に対しての [桁数] を適用した結果をまとめました。切り捨て・切り上げ・四捨五入の3つの方法を切り替えて使うには、これらの違いを理解することが重要です。

08

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	[数値]	123.456	123.456	123.456	-123.456	-123.456	-123.456	
2		ROUND			ROUND			
3	関数	ROUNDUP	ROUNDDOWN		ROUNDUP	ROUNDDOWN		
4								
5	-2	100	200	100	-100	-200	-100	
6	-1	120	130	120	-120	-130	-120	
7	0	123	124	123	-123	-124	-123	
8	1	123.5	123.5	123.4	-123.5	-123.5	-123.4	
9	2	123.46	123.46	123.45	-123.46	-123.46	-123.45	
10								

数値を指定した数値の倍数に切り上げる

CEILING

CEILING.PRECISE(ISO.CEILING)

書式: CEILING(**数値** , **基準値**)

計算例: CEILING(**123** , **5**)

[123] を5の倍数で切り上げ [125] を求める。

書式: CEILING.PRECISE(**数値** [, **基準値**])

計算例: CEILING.PRECISE(**123.45**)

[123.45] を1の倍数で切り上げ [123] を求める。

機能 CEILING関数は、[数値] が指定した [桁数] になるように切り上げます。[桁数] が正の場合は小数部を、負の場合は整数部を切り上げ、[桁数] が [0] の場合は整数化します。また、CEILING.PRECISE (ISO.CEILING) 関数は [基準値] の省略が可 (省略時は [1]) です。

指定した方法で倍数に切り上げる

CEILING.MATH

書式: CEILING.MATH(**数値** [, **基準値**] [, **モード**])

計算例: CEILING.MATH(**123** , **10**)

[123] を10の倍数で切り上げ [130] を求める。

機能 CEILING.MATH関数は、[数値] を [モード] の方法で [基準値] の倍数に切り上げます。[基準値] は省略すると [1] を指定したことになります。[モード] を省略もしくは [0] にすると、[数値] が正なら0から離れた整数に、負なら0に近い整数に切り上げます。[モード] に [0] 以外を指定すると、必ず0から離れた整数に切り上げ (絶対値で切り上げ) ます。

数値を指定した数値の倍数に切り捨てる

FLOOR

FLOOR.PRECISE

書式: FLOOR(**数値** , **基準値**)

計算例: FLOOR(**123** , **5**)

[123] を5の倍数になるように切り捨て [120] を求める。

書式: FLOOR.PRECISE(**数値** [, **基準値**])

計算例: FLOOR.PRECISE(**123.45**)

[123.45] を1の倍数になるように切り捨て [123] を求める。

機能 FLOOR 関数は、指定された [基準値] の倍数のうち、もっとも近い値かつ0に近い値に数値を切り捨てます。FLOOR.PRECISE 関数は [基準値] の省略が可 (省略時は [1]) です。

指定した方法で倍数に切り捨てる

FLOOR.MATH

書式: FLOOR.MATH(**数値** [, **基準値**] [, **モード**])

計算例: FLOOR.MATH(**-123.45** ,, **0**)

[-123.45,,0] を [-123.45] を負の方向に基準値で切り捨て、[-124] を求める。

機能 FLOOR.MATH 関数は、[数値] を [モード] の方法で [基準値] のもっとも近い倍数になるように切り捨てます。[基準値] は省略した場合は [1] です。[モード] を省略もしくは [0] を指定すると、負の数値を丸める方向を変更します。たとえば、[数値] が [-3.14] である場合に [基準値] を [1]、[モード] を省略または [0] に指定すると結果は [-3] になり、モードを [1] にすると [-4] になります。

数値を指定した数値の倍数で四捨五入する

MROUND

書式: MROUND(**数値** , **倍数**)

計算例: MROUND(**123** , **5**)

[123] を5の倍数で四捨五入し [125] を求める。

機能 MROUND 関数は [数値] を指定した [倍数] の倍数になるように「四捨五入」します。[数値] を [倍数] で割った余りが、[倍数] の半分以上の場合には CEILING 関数と同じ結果を、半分未満の場合には FLOOR 関数と同じ結果を返します。

数値を偶数値 / 奇数値へ切り上げる

EVEN

ODD

書式: EVEN(**数値**)

計算例: EVEN(**123.45**)

[123.45] をもっとも近い偶数に切り上げて [124] を求める。

書式: ODD(**数値**)

計算例: ODD(**123.45**)

[123.45] をもっとも近い奇数に切り上げて [125] を求める。

機能 EVEN 関数は [数値] にもっとも近い偶数を返し、ODD 関数はもっとも近い奇数を返します。[数値] が負の数の場合は、[数値] 以下で最大の偶数または奇数を返します。

使用例 数値の偶数 / 奇数への切り上げ例

EVEN 関数と ODD 関数を適用した結果をまとめます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	数値	2.0	1.5	1.0	0.5	0.0	-0.5	-1.0	-1.5	-2.0	
2	EVEN	2	2	2	2	0	-2	-2	-2	-2	
3	ODD	3	3	1	1	1	-1	-1	-3	-3	
4											